

(科目名) ブータンの農村に学ぶ発展のあり方			(群)	拡大科目群
			(系)	地域交流科目
			(開講期)	前期集中
(所属部局)	(職名)	(氏名)	(授業形態)	講義
東南アジア研究所	准教授	安藤 和雄	(対象回生)	全回生
白眉センター	特定助教	坂本 龍太	(対象学生)	全学生
(授業の概要・目的)				
<p>日本の過疎・離農の問題がブータンでも起きている。その実態を理解し、その問題をいかにして東ブータンの村人、大学の学生や教員、行政者などが捉え、克服していこうとしているのかを、東南アジア研究所と学術協定を結んでいる王立ブータン大学シェラブツェ校において、ワークショップ、東ブータンの村々で参加型迅速農村調査法 (PRA) や参加型農村調査と実践 (PLA) によるフィールドワークによって学ぶ。</p>				
(授業計画と内容)				
<p>王立ブータン大学シェラブツェ校において、同校を受け入れ先として、参加型フィールド講義を行う。形式は集中講義として、ブータンの歴史や農村、農村開発に関する座学1日、フィールドワーク実習を5日、最終日の1日をかけ本講義で掴んだことを発表するワークショップを実施する。座学とワークショップはシェラブツェ校で、フィールドワークは、同校が立地するブータン国タシガン県の農村部で実施する。宿泊地は同校ゲストハウスとゲオック（行政村）の役場、農家を予定している。また、ブータンのシェラブツェ大学の若手教員と学部生を京都府下の中山間山村である南丹市美山町知井振興会に招き、日本の過疎・離農の問題の現状とその問題への取り組みを同じく学んでもらう。南丹市美山町知井振興会においても座学1日、フィールドワーク5日、最終日の1日をかけてワークショップを実施する。知井振興会でのプログラムには、できる限り、本講義でブータンにでかけた学生に声をかけて1日でもよいので参加してもらおう。京都大学の学生派遣を8月末から9月中旬にかけての2週間、ブータンのシェラブツェ校からの教員と学生の招聘については、10月中旬から下旬の3週間で予定している。</p>				
(成績評価の方法・基準)				
<p>東ブータンでのフィールドワークでの参加姿勢やシェラブツェ校でのワークショップでの発表をもとに、最終的には、成績評価を東ブータンの地で参加者全員で議論して学生参加型で成績評価を行う。</p>				
(履修要件)				
<p>東ブータンのフィールドワークにおいては、村では雑魚寝のような宿泊となる場合もあり、かつ、現地の食事（トウガラシとバター、チーズ味が基本）を食べることになり、また、ゲストハウス等々も、十分な宿泊設備が整っているわけではない。こうした現地でのフィールドワークでの共同生活を問題なくこなしていけることが履修要件となる。</p>				
(教科書) 使用しない				
(参考書)				
<p>本講義に参加する学生が決定した後は、事前の準備のための説明会と打ち合わせ会を参加者の予定をメール等で確認して2回ほど行う</p>				